

第1章 背景・目的等

1 背景

本市が保有する公共施設の約6割を占める学校施設は、91%が築30年以上と老朽化していますが、計画策定にあたっては、将来の小中学校の児童生徒数の減少も視野に、今後の学校施設の整備を検討する必要があります。

2 目的

本計画は、「計画的保全による長寿命化」の考え方を取り入れた整備手法への転換を図り、児童生徒の安全性の確保や適切な教育環境の充実を図ることを目的に策定するものです。

3 計画期間

・2020年度から2059年度までの40年間

第2章 学校施設を取り巻く現状

1. 施設整備の実態

対象施設: 小学校13校、中学校6校 計145棟 13.7万㎡ 現在

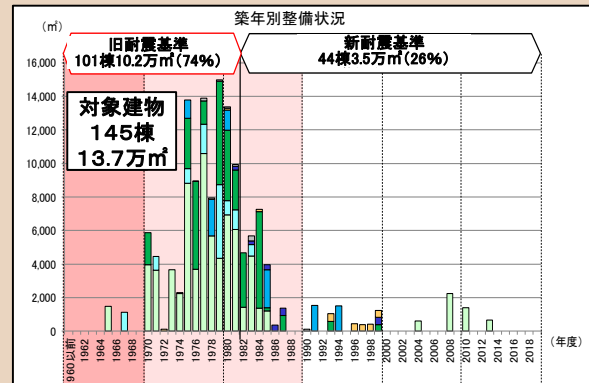
(1) 建物基本情報				(2) 躯体の健全性				(3) 劣化状況				(4) 仕様				(5) 履歴			
施設名	種別	用途区分	構造	躯体健全性	劣化状況	仕様	履歴	躯体健全性	劣化状況	仕様	履歴	躯体健全性	劣化状況	仕様	履歴	躯体健全性	劣化状況	仕様	履歴

(1) 築年別整備状況

築30年以上の建物が127棟12.5万㎡(91%)であり、老朽化が進んでいます。

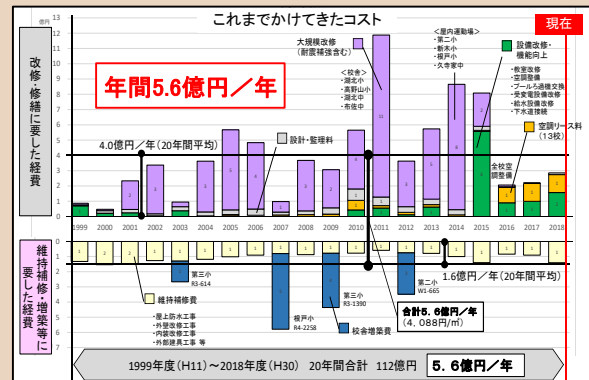
特に建設が集中しているのが1975年(昭和50年)から1981年(昭和56年)で、この7年間に延101棟8.3万㎡を整備しています。

→ピークが集中しており劣化が進行している。



(2) これまでかけてきたコスト

1999年度(平成11年度)から2018年度(平成30年度)の20年間の事業費は、総額112億円、年平均5.6億円/年です。

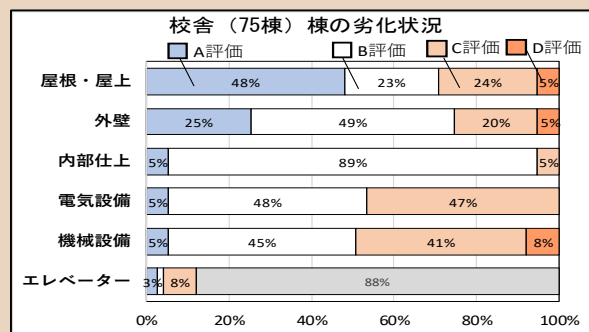


(3) 躯体の健全性

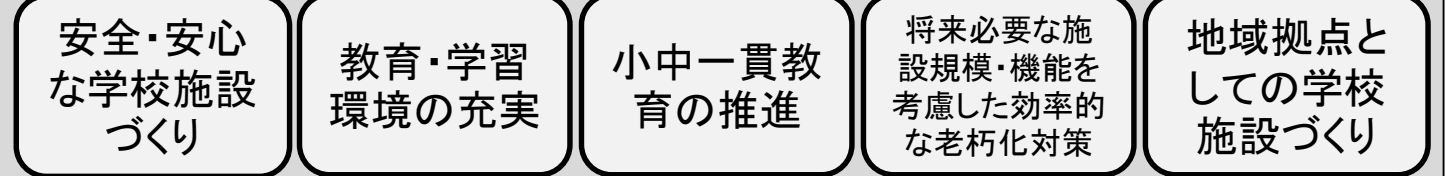
コンクリート圧縮強度をみると、13.5N/mm²以下である建物が3棟あります。これらは長寿命化には適さないといえます。

(4) 躯体以外の劣化状況

評価結果をみると、施工後20年以上経過したものについて、広範囲の劣化が見られます。劣化が進み早急な対応が必要な部位(D評価の部位)がある建物が22棟あります。



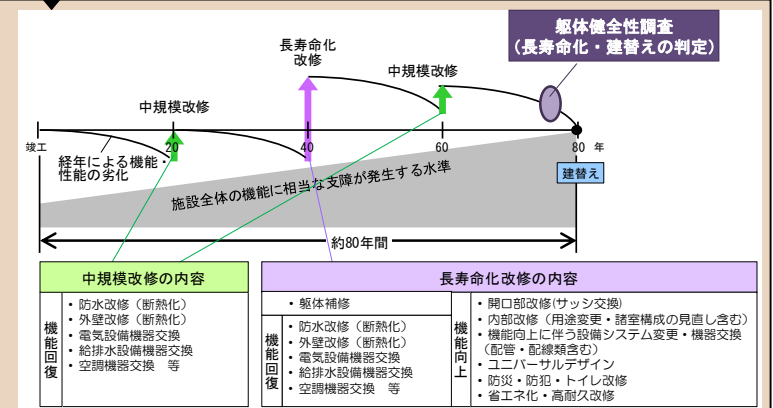
第3章 学校施設の目指すべき姿



第4章 施設整備の基本方針

計画的保全による施設の長寿命化

構造躯体の健全性が確認できた施設については、改修によって機能回復・機能向上を図ることで、より良い状態で長く施設を使っていきます。



第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の考え方

1 目標使用年数及び改修周期

対象となるRC造の建物は、公共施設等総合管理計画の基本方針の一つである「施設の安全確保と維持管理の効率化」の考え方にに基づき、長寿命化を図ります。

この場合、使用年数は、鉄筋コンクリート造で60年、鉄骨造で45年を標準とし、今後も安全に資産として活かせることを念頭に、損傷が軽微な段階で予防的な修繕を行うとともに計画的な大規模改修を図ります。

さらに築50年前後を迎える時期を目的に躯体等の健全性が確保できることを前提として、最大80年までの使用に向けた検討を行います。

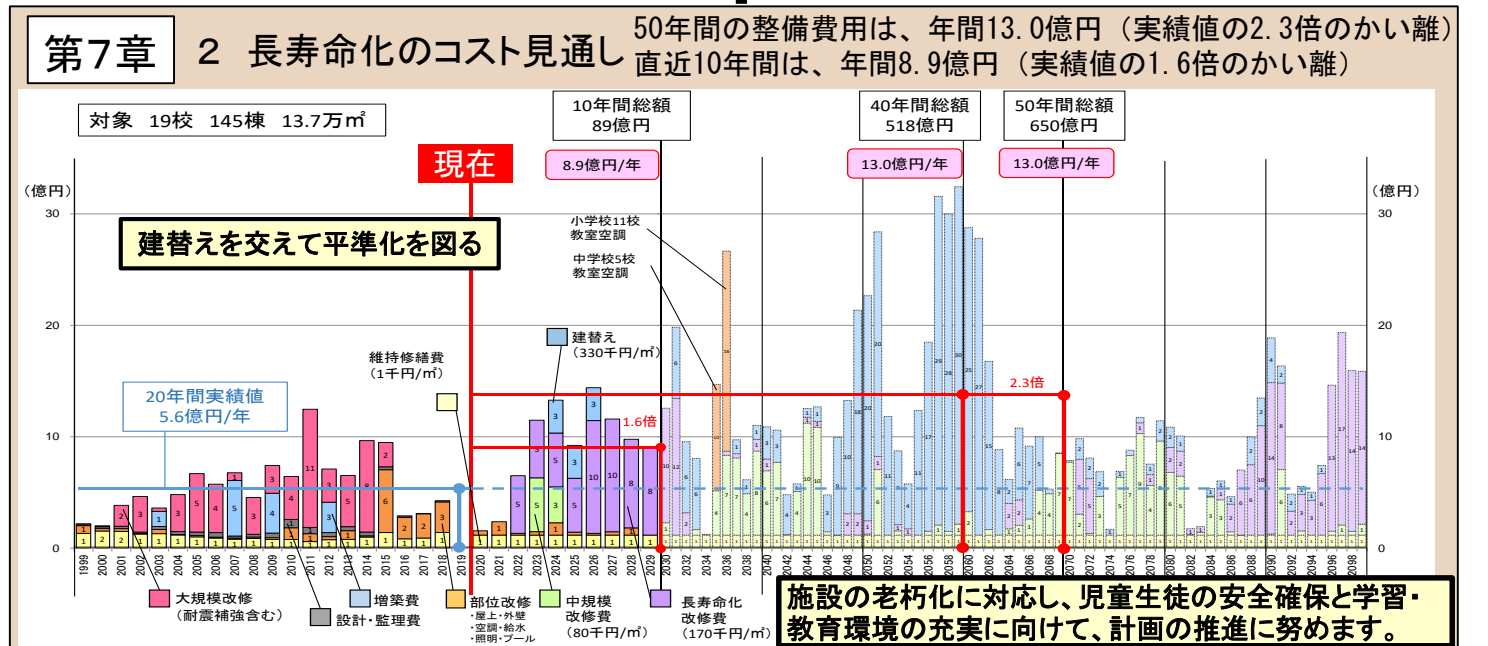
2 改修等の整備水準

長寿命化改修にあたっては、各部位の耐久性を高めるとともに、省エネ対応や多様な学習形態による活動が可能となる環境整備に応じることで、今後、30~40年間、施設を良好な状態で使っていける整備水準とします。

基準とする整備水準は次のとおりとしますが、整備年度の財政状況や個別の施設の状況に応じて改修内容を決定します。

- ・屋上外壁防水・省エネルギー型照明(LED)改修
- ・給排水衛生設備改修・消防用設備改修
- ・バリアフリー機能改修・非構造部材耐震化

第7章 2 長寿命化のコスト見通し



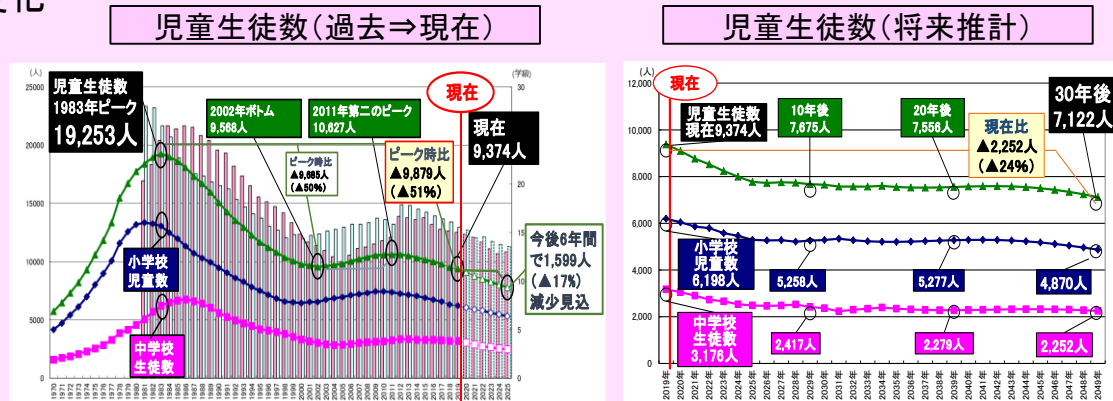
施設の老朽化に対応し、児童生徒の安全確保と学習・教育環境の充実に向けて、計画の推進に努めます。

第2章 学校施設を取り巻く現状

3. 児童生徒数の変化

ソフト

- 児童生徒数学級数は現状、ピーク時(1983年)の約5割
- 今後、6年間で現状より17%減少の見込み。



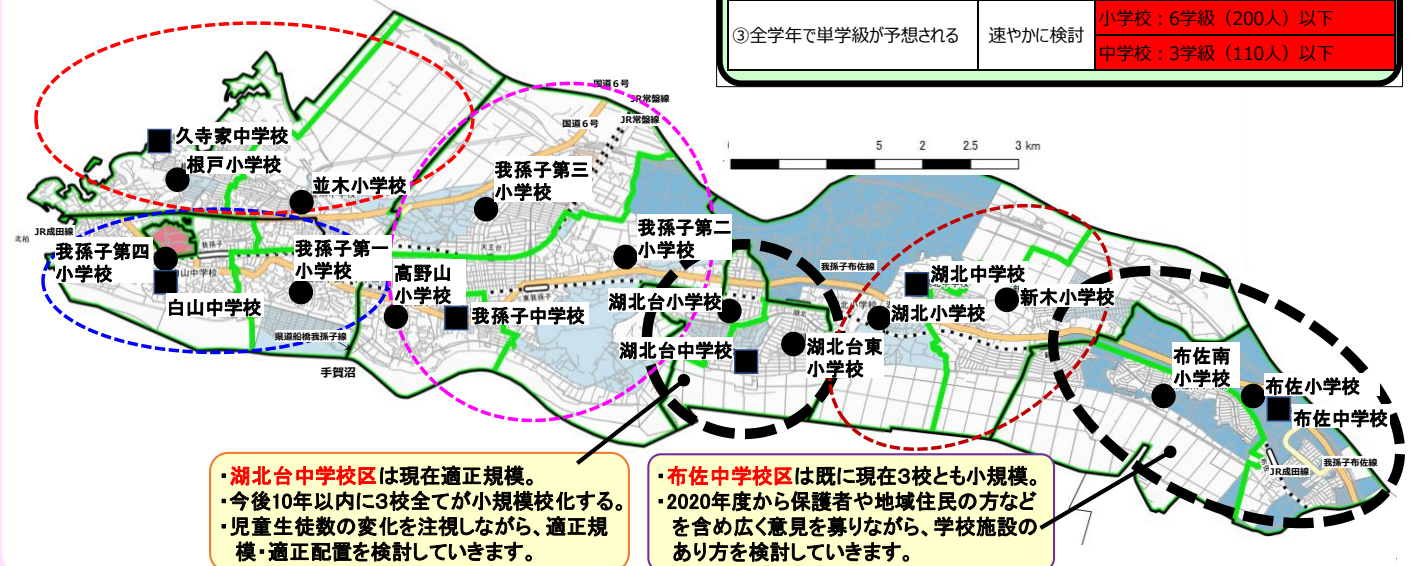
第5章 今後整理すべき学校施設の課題と方向性

1 将来変化への対応

(1) 適正規模の検討基準の明確化

児童生徒数の減少等の現状を鑑み適正規模の検討を始める基準を設定します。

【適正規模の検討基準】		基準
①我孫子市の適正規模を下回ることが予想される	検討準備段階	小学校：12学級（300人）未満 中学校：9学級（300人）未満
	検討段階	小学校：7～10学級（250人未満） 中学校：4～7学級（200人未満）
②複数学年で適正規模を下回ることが予想される	速やかに検討	小学校：6学級（200人）以下 中学校：3学級（110人）以下



2 プール施設のあり方の見直し

今後、大規模改修や改築に多額の費用を要すると想定されるため、様々な手法の中から最適な方法を用いて管理・運営を工夫する必要があり、選択肢として現在の施設を引き続き利用、民間施設の利用、隣接校での共同利用等があります。プール運営手法の選択にあたっては、児童の水泳指導の継続を第一に考え、総合的に判断します。

3 給食施設のあり方の見直し

学校給食施設については、児童生徒数の将来推計を踏まえて、自校、親子、センターの各方式による提供方法を含めた給食のあり方を検討していきます。現在の課題や提供方法の違いによるメリット・デメリットを明らかにした上で、トータルコストの比較により整備費用の縮減の視点も加味した検討を進め、2020年度(令和2年度)に給食のあり方の方針を定めていきます。

第7章 長寿命化の実施計画

1 改修等の優先順位付けと実施計画

(1) 優先順位の考え方

建物の詳細実態把握より、築年数、躯体の健全性、躯体以外の劣化状況、トイレの改修実績を考慮し、施設の整備計画を整理しました。長寿命化改修や建替えを行わない建物の劣化には、中規模改修や部位改修で対応します。施設整備に関する補助金や起債については最大限活用することとし、単年度負担の一般財源を最小限に抑えることとします。

(2) 今後10年間の整備計画(案)

2020年度(令和2年度)から2029年度(令和11年度)までの整備計画(案)は右表のとおりです。なお、各年度の状況や小規模校として適正規模の検討が今後予想される「湖北台中学校区」については、整備内容を見直す可能性があります。

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	
長寿命化改修			我孫子中 ・教室棟R4-2815 ・教室・管理棟R4-2781 ・給食室S4-93				久寺家中 ・管理・普通教室棟R4-2994 ・普通・特別教室棟R4-2266		第三小 ・管理教室棟R4-2522 ・給食室R1-124 ・教室棟R3-1328 ・教室棟R2-45		
建替え					湖北台西小 ・管理教室棟R3-2764 ・普通教室棟R3-614 ・普通教室棟R3-761 ・普通教室棟R3-760 ・普通教室棟R3-651 ・渡り廊下S-134	湖北台中 ・教室棟R4-3170 ・管理教室棟R3-1207 ・管理教室棟R3-696 ・管理教室棟R3-1410 ・渡り廊下S2-60			湖北台東小 ・管理教室棟R4-2542 ・管理教室棟R4-1878 ・給食室R1-186 ・管理教室棟R4-621		
中規模改修			並木小 ・管理棟R3-525 ・管理棟R3-1785 ・特別・普通教室棟R4-3098	第二小 ・特別・普通教室棟R4-3098							
部位改修(補助あり)		我孫子中 体育館照明		久寺家中 相談室空調 白山中 相談室空調 湖北中 相談室空調	全校の図書室空調		湖北台中 柔剣道場外壁	中学校全校の職員室空調	小学校全校の職員室空調		
部位改修(補助なし)		我孫子中 体育館屋根	第二小 給水設備 第三小 給水設備 湖北中 給水設備 布佐小 給水設備								
事業費	1.56億円	2.38億円	6.51億円	11.49億円	13.29億円	9.23億円	14.40億円	11.59億円	9.78億円	9.13億円	

※整備計画(案)の事業費には設計や工事監理などの費用は含まれておりません。

第8章 継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

学校施設の基本情報、工事改修履歴等の一元管理を行い、施設の長寿命化を計画的に進めることとします。

2 推進体制等の整備

学校施設を所管する教育委員会が中心となって推進します。他の施設との複合化等の検討の場合は、資産経営課をはじめとする関係部署と連携し、検討を進めます。

3 フォローアップ

児童生徒数や地域の開発動向など学校施設を取り巻く状況を常に把握し、将来変化に柔軟に対応していきます。

